



令和8年度大学入学共通テスト

1月17日(土)・18日(日)に行われた「令和8年度大学入学共通テスト」を本校3年(61期)生299人が受験し、今までの学習の成果を存分に発揮してくれました。今後は、国公立大学や私立大学の一般選抜入試に向けて、気持ちを切り替えて受験学習に取り組んでください。今号では、大学入試センターが公表した志願者数等の確定値などを取り上げます。1・2年生の皆さんは、先輩の受験した「大学入学共通テスト」に関する情報をきちんと分析して、自分たちの進路実現に活用してみてください。

【令和8年度大学入学共通テストの志願者数等について】

(1) 志願者数について

志願者数は、496237人(対前年度比1066人増)

※高等学校等卒業見込者(現役生)420311人

(対前年度比5657人減)

※高等学校等卒業者(既卒者)71310人

(対前年度比6336人増)

(2) 共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学数について

利用大学・専門職大学・短期大学・専門職短期大学数は、813大学

※昨年度より、私立大学:11減、私立専門職大学:1増、私立短期大学:15減、私立専門職短期大学:1増

【今年度の特徴】

現役高校生の出願は減少しましたが、既卒者が大幅に増加しました。その理由として、第一志望校ではなく合格を優先して進学したことに後悔し、再受験に踏み切る人が増えたと考えられています。

国公立大学の出願について

61期生の皆さんは、国公立大学一般選抜入試(前・中・後期)や私立大学一般選抜入試の出願を済ませたでしょうか。令和8年度国公立大学一般選抜入試の出願は、前期日程・中期日程・後期日程を1月26日(月)～2月4日(水)の期間内に、同時に出願することになります。特に、今年度は、「大学入学共通テスト」の出願方法が電子化され、各大学の一般選抜入試でも例年とは異なる点もあると思いますので、出願先の大学ウェブサイトから出願方法について必ず確認した上で、確実に行ってください。

国公立大学一般選抜入試に向けて

2月に入ると多くの私立大学で一般選抜入試が始まり、25日には、国公立大学一般選抜入試前期日程が行われま

す。特に、国公立大学の受験に向けては、1月に行われた大学入学共通テストと一般選抜入試の結果を合わせた成績等で合否判定が行われることから、入試日までの受験戦略と、それに基づいて作成した受験学習計画の実施が、とても重要になってきます。そこで、受験直前期にぜひ取り組んでほしいことについて、次のようにまとめてみました。参考にしてみてください。

【国公立大学一般選抜前期入試に向けて】

(1) 受験校合格に向けた戦略を立てる

① 一般選抜入試での目標点を設定する

受験校の昨年度入試における合格者平均点や最低点を調べ、合格するために必要となってくる一般選抜入試での目標点を、大学入学共通テストの自己採点結果や合格者平均点や最低点をもとに考え、その目標達成に向けた約3週間の学習計画を組み立ててみましょう。この目標点が、大学入試当日までのモチベーションになってくれます。なお、合格者の平均点や最低点は、大学のウェブサイト等に掲載されていますので、確認してください。

② 受験校の過去問に数多く取り組む

数多くの過去問に取り組むことで、受験校の出題傾向や難易度がわかってきます。つまり、この取組を確実に行うことで、自らが設定した目標を達成するために「何が必要か」が、明確になってきます。ぜひ、進路資料室を最大限活用して、多くの過去問を収集し、受験日まで突き進んでいきましょう。

③ 達成感を積み重ねる

この入試直前期に現役高校生でよく見られることは、「苦手な問題が出たらどうしよう。」・「知らない問題を解けるようにしておきたい」という不安や焦りから新しい問題集に手を出してしまいがちです。しかし、この時期は「知っている問題を確実に解ける」ことの方が、とても大切です。今まで使用したテキストや模試の問題を徹底的に復習して、「できる」という達成感を積み重ねていくことが、志望校への「合格力」を高めてくれます。特に、10月に行われた記述模試(ベネッセ・駿台、全統)や各大学のオープン模試は、大学入試でよく出題される分野を検討して作成されていますので、何度も解き直すことは重要なことです。

受験対策としての定期考査の重要性

定期考査とは、教科書に載っている内容に基づいた問題で実施されるテストです。つまり、3年生で受験する「大学入学共通テスト」も教科書の内容に基づいて作成されていますので、定期考査に向けてしっかり対策し、テスト返却後の復習を徹底的に行うことは、受験生として高い意識を持っていると言えます。1・2年生の皆さん、2月9日(月)～13日(金)に実施される学年末考査に全力で取り組んでください。

1 学年別朝礼の続き〜**なんとなく「あと2年勉強すれば受かるだろう」と考えているキミへ** 不合格体験記より
【浪人：現役の時より、勉強方法を考えるようになったが…】

結論、浪人しても志望校には合格できず、滑り止めに進学しました。浪人になってからは、YouTube をみて、勉強の方法から探すようにしていました。現役の時は勉強法など何も知らずに、ガーっとひたすらやっていただけだったからです。勉強計画の立て方、基礎の積み上げ方、復習の仕方なんかを調べて、効率的なやり方を探って、いろんな方法を試すようになりました。それでもなぜか成績は全然伸びなかったんですよね。今だからわかりますが、成績が伸びなかったのは、自分に合った正しい努力ができてなかったからです。誰かにとってうまくいった勉強法だとしても、自分が出来るとは限りません。

結局、現役と同じく、頑張っても頑張ってもうまくいなくて、早めにポキッと心が折れてしまいました。ひとりで正しい努力をするのは、とても難しいことでした。浪人することにした分、プレッシャーも、プライドも高くなって、本当にヤバかったです。ずっとラジオ聞いて、「自分より下の人間もいるから、安心…」みたいな感じで、現実逃避をしていました。受験勉強を振り返って思うことは**もっとよく考えて、「正しい」努力をしろ**です。

受験生活を終えて、僕が後悔していること…最初から、適切な危機感を持ちたかった…です。

「早稲田ってこんなにすごいんだ」というのは今でこそ実感できますが、高2のこの時期は、漠然とすごいなって思っただけでした。**他の学校や受験生と比較して、どのくらいすごいのか、全然実感できていませんでした。**実際、早稲田に受かる人たちは、基本的にえぐくらい偏差値高い進学校の人がほとんどです。言われてみると当たり前なんですけど、**そんなことは環境的に、想像もつかなかったんです。**だから後悔していることで言うと、はじめから「自分の目指したい学校はこんなにヤバイところなんだ」という危機意識をきちんと持って勉強ができたなら良かった、というところが大きいです。正直今振り返ると、1, 2年でどうにかなるやつじゃなかったな、と思っています。もっと前から基本的な教養が必要でした。

「自分には何が足りないのか、周りとはどのくらいのレベルなのか、自分のレベルはどのくらいで、何をやるべきなのか。」と、明確に自分のすべきことがわかるくらいにしておけたら良かったと、今でも思います。

僕が高1高2の2, 3月の今のキミたちに知って欲しい4つのこと

僕が高2の2, 3月の頃の自分に言いたいことは、**「もっと考えろ」**。これにつきます。当時の僕は、とにかく手を動かす、マシンのようでした。それしか勉強する方法を知らなかったからです。単語帳をとにかく読む、英熟語をとにかく書く。机に向かう。行動自体は大事ですが、それが何のための行動なのか考えていなければ、実際なんの意味もありません。事実、僕はちっとも内容が身につかないまま時間が過ぎてしまいました。でも、最初から受験において大事なことを知って、それについて考え続けながら勉強することができていたら、結果は全く違っていただのかもしれないと思えることがあります。そこで、僕自身が過去の僕に伝えたいことを簡潔に4つにまとめてみました。

「志望校の『本当の』難易度」「自分の学習力(学習習慣)」「受験の常識」「王道のセオリー」これです。読んでもピンときていない人もいるかもしれません。ざっくり大事なのは、自分が行きたい大学がどのくらいヤバイのかしつかり知ること、そして、自分が**どのくらいできないのかもちゃんと理解すること**。その上で、自分が行きたい大学に行くために必要な勉強をちゃんと理解して、合格する人は大体この時期にはこうなっている、という理想をきちんと追えるように常に考えて勉強を続ける、ということです。

一番焦って欲しいのは、現実で志望校の合格をあっさらっていく進学校の上位層は、これらのポイントを体で理解していたり、学校で教えてもらえるということ。ここでまず、一歩目の差が気付かないうちにものすごく開いているんです。

だからこれから受験をする人は、ぜひ、

- ・志望校はどこで、そこに行くために必要なものは何なのか？
- ・自分は目標に対してどのくらいのレベルにいて、何をどう勉強する必要があるの？
- ・どうすれば自分に必要なものが手に入るのか

などなどをしっかり考え、知るべきことを知って、頑張る内容を間違えない、**「考え続ける正しい努力」をして欲しい**と思います。僕の不合格体験記は以上です。